

本日は本部初供養会、そして新成人の皆さんに祈願をする供養会です。新成人の皆さん、本当におめでとうございます。

本日、学んでいただきたいことは教典にあります『盲亀浮木（もうきふぼく）』という言葉です。

大海で泳いでいる目の見えないウミガメが、100年に一度水面に顔を出した時、浮いていた木の穴に首をちょうど通したという例えです。

茶道では一期一会と言いますが、こうやって我々が人間に生まれてきたこと、そしてこの仏教という尊い教えを学んだということは本当に稀だということなのです。

〇〇家の子孫として生まれたということには意味があって、これは盲亀浮木であり、一期一会なのです。

両親と先祖のおかげで、こうして人間として命を得たということ、これほど稀なことはないのです。

どんなことがあっても両親、そして先祖に感謝し、どんなに辛いことがあっても感謝して歩むべきなのです。

つまり私たちは先祖を尊び、供養しなければならないのです。

皆さんには、人間として生まれたのは両親・先祖のおかげなのだ、一時でも思っていたきたい。

その一時を得る機会というのは、朝夕のお経のときです。

お経をあげる時、ご法座を見た時に、自分が人間として生まれてきたのは両親のおかげである、そして総戒名と過去帳を見た時

に、先祖のおかげなのだなとすることができます。

どんなに忙しくても、先祖との入り口であるご法座・ご仏壇に手を合わせ、私の言ったことを思い出してみてください。

また、人間が持っている特別の感情とは、人を好きになることだと言われています。

皆さんは人を好きになりその人を信じて、一緒に次の新しい人生を歩みたいと思う。

そしてその皆さんが縁を結んで、新しい命を産むことができる。こんな素晴らしいことはないのです。

大好きな子供を産んで、その子供のために親は悩むことがあるかもしれません。それも人間としての価値なのです。

苦しみも悩みも人間が持っている価値であり、それでこそ我々は成長ができるのです。

それが人間としての我々の歩むべき道だと思います。

そして最後に、私たちは1人ではないのです。

妙智會員はみんな一つです。どんなつらくても、我々は一つになれば怖くない。乗り越えられるのです。

それを今日再確認していただくことを願って、私の指導とさせていただきます。本日はありがとうございました。